

議事録	
件名	第2回にかほ市風力発電に係るゾーニング推進協議会 議事録
日時	平成31年2月22日(金) 14:00~16:10
場所	にかほ市象潟庁舎 大会議室
出席者	・にかほ市風力発電に係るゾーニング推進協議会員名簿
資料	
結 果	
<p>(1) 事業の進捗状況報告</p> <p>1. 1 前回までの振り返りと課題への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【丸山会長】小型の機数が多くなっている状況を踏まえ大型・小型を含めてゾーニングの対象に取り込むべき。 ⇒【事務局】大型・小型も含めてゾーニングを行っていききたい。</li> <li>・【中村副会長】小型風車は回転数が早くなるので騒音の問題が出やすい。騒音調査して、どの程度の騒音が出るかによって規制をかければよい。</li> <li>・【丸山会長】小型はプロペラ音が耳につきやすい。次年度は対象に含めて調査するものとする。</li> <li>・【丸山会長】ヒアリングは観光客や風車に反対している方にも行うべき。 ⇒【事務局】反対されている方々には次年度適切な時期に、協議会で相談しながら行いたい。</li> </ul> <p>1. 2 既存情報の収集、整理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【丸山会長】ほかの地域の場合、普通に重ねるとできるところがなくなってしまうのだが。 ⇒【事務局】エリア的な検討は未着手であるが、別紙2の保全エリアを見ると、保全エリア以外はミズナラ・コナラ等の樹林、植林地であり、オオタカ・ノスリ・クマタカの生息地・繁殖地が残っているのでないか。保全エリア以外は猛禽等の重要な生息地が多くを占めているのでないか。重みづけについては今後植生等の中身を見ていくべきと思う。大まかにいえば生物の観点からは気を付けたいエリアになる。</li> <li>・【丸山会長】重みづけを考える前に、一回単純に重ねてポテンシャルがあるのかないのか、市が今後風力を増やしたいか打ち止めにするか、施策の方針とすり合わせ、増やすならどのようなやり方でいくかという議論になっていくと思う。</li> </ul> <p>1. 3 鳥類調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【加藤委員】ミサゴは河川以外に、海岸でも魚を捕ったりするので、海岸の風車は注意が必要。ハヤブサは、営巣地は海岸だが、水田・里山で餌を取ることがある。ヒシクイとオオヒシクイの区別は飛行中には難しいと思うがどのように判別しているのか。 ⇒【事務局】ヒシクイ、オオヒシクイの判別は、判別できる距離での観察によるが、調査状況を確認する。</li> <li>・【星崎委員】秋田県のコウモリ類は未解明であり、他にも多種が生息していてもおかしくない。最近調査が進み記録が増えている。このような機会にしっかりと調査をして欲しいが、既存調査を中心とした判断の場とは思いますが、調査を進めながら判断をしていくこと考えて欲しい。</li> <li>・【丸山会長】次年度の課題となるが、調査を進めながら考えることも必要と考える。鳥類は環境から生息の確率を判断することができるが、コウモリ類はどうか。調査しなくても地図情報から判断することは可能か。</li> <li>・【星崎委員】コウモリ類については難しい。</li> <li>・【丸山会長】飛行高度はどうであったか。 ⇒【事務局】M域(風車のブレードの範囲)の飛行が多い。長距離を移動する渡り鳥はL域、高空が多かった。整理してお示しする。</li> <li>・【丸山会長】飛行高度により影響を判断することもあるので、引き続きデータは取って欲しい。</li> <li>・【星崎委員】鳥類調査の期間は、何日間ずつ行っているのか。 ⇒【事務局】猛禽類は3日間、8時~16時頃、渡り鳥は2日間、1日は日没を含む時間まで、</li> </ul>	

もう1日は日の出を含む時間から、実施している。

- ・【星崎委員】なるべく多く調査期間を取った方がよい。
- ・【丸山会長】池沼の利用で、調査していなかったものなのか、調査していないのかを明らかに示すように。
- ・【由井オブザーバー】1月の時期にヒシクイが南下しているのはなぜか。新潟の瓢湖と往復している。飛翔高度については吹雪いた時に低い高度で飛ぶこともある。また、大きな水鳥は飛び立ち風車の高さ以上の高度に達するまで2~4km必要である。渡りの経路になっており、環境省の既存情報とも合致している。将来渡り鳥のルートとして守っていくことが大事であり、今回の保全エリア、可視範囲等とも共通の解決となるようゾーニングを検討して欲しい。
- ・【星崎委員】北日本で吹雪等の悪天候の時は、新潟方面へ南下し、暖かくなると過密を避け北上する。

#### 1. 4 景観調査

- ・【星崎委員】0.5度を超えて目立つ場所を探すよりも、どこから見ても目立たない場所を探す方がよいのでないか。  
⇒【事務局】別紙4の垂直見込角0.5度以上領域の重なりで、限りなくブルーに近くなる領域が、ご指摘のエリアになると考える。←（誤りです。星崎委員のご指摘の場所は、別紙4の着色されていない領域を指します。訂正してお詫びいたします。）
- ・【丸山会長】この地図は、視点場は自由に設定できるのか。位置情報があれば任意に設定できるのか。  
⇒【事務局】位置情報があれば任意で設定できる。ただし、樹木のデータや建物の情報は反映されていない。
- ・【丸山会長】そういう意味では安全サイドの評価かと思う。
- ・【星崎委員】眺望点はどのように設定したのか  
⇒【事務局】現在にかほ市で検討中の景観計画の眺望スポットと可能な限り整合を図って抽出している。
- ・【中村副会長】広報にかほの景観アンケート記事だが、中学生はあまり気にしていない。年齢によっても変わるので0.5度に限定しない方がよい。
- ・【丸山会長】2ページの議論はエリアの設定とリンクする。既設の風車でも、同じ見え方でも評価が真逆。現時点では目いっぱい安全サイドに見る。それでもポテンシャルがあればそこからスタートする。だめであれば垂直視野角1度の検討が出てくるのでないか。
- ・【温井委員】客観的な物理的データとしてこれはこれでよい。象潟の九十九島など、重要な景観資源に対する価値観をどう評価するかが課題。

#### 1. 5 風況調査

- ・【丸山会長】社会的条件を重ねて、どのくらいポテンシャル評価するというとき、このデータも必要になってくる。
- ・【中村副会長】風速も大きい、風向もほぼ一定であり、これなら作りたくなるのは分かる。7m/sあれば採算とれる。
- ・【丸山会長】小型を建てるにしてもいい風況。

##### (2) ゾーニング対象範囲の決定

- ・【事務局】ゾーニング対象範囲はにかほ市全域としたい。分けた場合不平等になる、分ける理由・根拠も特にないことから、そのようにしたい。
- ・【丸山会長】気象条件を先に調べて可能な場所という方法もあるが、技術の進捗で賞味期限がきってしまうこともあり、全域でやることにしたい。
- ・【星崎委員】眺望点については、隣接する自治体の眺望点から見たときも想定に入れた方がよい
- ・【丸山会長】特に景観に関しては、隣接する市町村で配慮が必要な項目については可能な限り対象に取り込むものとする。

##### (3) 次年度の事業計画について

#### 3. 1 鳥類等調査

- ・【加藤委員】希少猛禽類の繁殖期は定点調査の他、ハチクマ、オオタカ、ハヤブサ、サシバなど、高いところを飛んで餌を取るタイプではない。繁殖期は樹林の中などを飛ぶものは確認が難しい。ルートセンサス法も行ってはどうか。また、調査回数が少なく、月2〜3回行って欲しい。

⇒【事務局】アセスでは巣の位置を特定するために、「猛禽類保護の進め方」等で3〜8月調査が必要とされているが、今回はゾーニングのために、データの無いところで生息を把握する目的なので回数は少ない。詳細な調査はアセス時点で実施するもので、巣や行動圏を把握するためのものと考えているが、今後のゾーニングでも手法・回数等は検討する。

### 3. 2 景観調査

- ・【温井委員】文化庁の名勝、松島ではルールは決まっていない。そのつどチェックして審査している。どのように想定してゾーニングしようとしているかが2点目。P.2の鳴門市の例で、その都度調整しながら決めていくのか、と想定していたが。
- ・【温井委員】ゾーニングの結果、風車を設置できるエリアがなくなったらどうするのか  
⇒【事務局】ゾーニングマップの公表後、「規制エリア」では何らかの罰則規定を設けることを想定。「促進エリア」では何らかの優遇制度を設けて事業促進を図ることを想定。
- ・【丸山会長】マップの活用は3年目の課題、そこで議論になる。一番厳格なのは条例をつかってそれと紐づける、これは違反すると固定価格買取制度の法令違反になるので最も強力。もっと誘導的にやる方法もあり、データを無償で提供するとか、固定資産税の減免など、推奨エリアに持っていくとか。審査委員会を作っておいて、事業者が申請した時に事業の中身を審査する仕組みを持っている自治体もある。
- ・【温井委員】今回ゾーニングはにかほ市全部のエリアで設定されるわけで、農村部と都市部の全部をカバーする土地利用規制は画期的だと思う。
- ・【中村副会長】ゾーニングはここまでなら妥協できるという範囲だと思う。
- ・【温井委員】私もそういう感覚でいたが、高原で風車があった方がいいと思った。
- ・【中村副会長】オランダでは世界遺産になっていて、私も風車があった方がいいのか、ない方がいいのか。
- ・【丸山会長】その辺を考慮して、来年度住民向けのワークショップに使っていくのが重要だと思う。単純な迷惑施設ではなく、地域の方が再エネに積極的に主体的に取り組む事例もあり、やり方とか、利益の分配のしかたによっては積極的にやってくれという取組みもある。どうせやるなら地域に付加価値のあるものを推奨すべきだし、その議論抜きに線引きはできない。やるからには最低限守るルール、地域にこんなメリットがほしいという議論をしていくことが重要。
- ・【星崎委員】地域のメリットとは雇用の創出、税収の増大であり、それは事業者が決まってからの議論で、この委員会では議論できないと考える。マップはデメリットをリストアップして、どの方面にどんなデメリットがあるかを考えて、利害関係者を拾ってどんな声を拾うかである。どこまで我慢できるかという言い方は発電所ありきだと思う。風力発電を導入するデメリットを明らかにして、ステークホルダーを幅広く捉えて声を募ることが重要。
- ・【丸山会長】にかほ市の生活クラブが北の方に設置している風車が全国的に有名で、地域活性化にしっかり結びついていて、一般論では反対されている方もいたが地域へのメリットを説明することで受け入れられている、推奨する仕組みを並行して議論できればいい。制度設計までできればいい。
- ・【丸山会長】住民理解の事業と絡むが、生活クラブの風車は音の計測をしているので活用されるとよい。
- ・【丸山会長】景観については、水平視野角、幅、広がりがあると目ざわりになる等の、既設の風車の景観など NEDO の一般的知見があるので住民に情報提供してほしい。それを集めながら住民向けの資料に使っていく。
- ・【オブザーバー 荒井准教授】景観調査で重要な点は3点。何を見るかが重要なので、視軸が重要。日常生活の眺めが重要なので、眺望点 景観の調査 VR を使うのは画期的なので、どの場所でもどの設置すればよいと考える（確認中）。
- ・【丸山会長】ちなみに VR、AR でよい方法があればご紹介いただきたい。
- ・【星崎委員】来年度の景観調査資料を著作権があるので配布後回収とのことだが、情報開示請求に基づけば資料を出さないわけにはいかないのではないか。

⇒【事務局】次回に回答したい

- ・【辻委員】にかほ市の梨ノ木台風力発電所の説明会であったことだが、同じ地域で風車の見え方に対する受け止め方が異なり温度差がある。風車があることのメリット・デメリットを住民に分かるように示したうえでアンケートの質問に取り組んでほしい。

### 3. 3その他

- ・【中村副会長】地下水脈についての次年度の調査がない気がする。  
⇒【事務局】検討中であり、3年間のうちで調査したい。
- ・【オブザーバー 坂本係長】ゾーニングマップの活用は実証事業 アメリカ 保全エリア 促進エリアはむしろ国や自治体がアセスまでやってしまいどうぞ、日本ではどのような活用ができるかをご検討いただきたい。ゾーニング実証の陸域はにかほ市のみなので課でも注目している（確認中）。

### 4. その他

- ・【事務局】次回は5月頃を想定、後日に日程調整をお願いしたい。
- ・【丸山会長】来年度は線引き、委員各位には個別にヒアリングに行くと思うが対応をお願いしたい。

以上